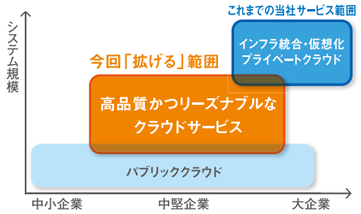
TOPICS

ビジネスクリティカルなクラウドサービスをリーズナブルに提供

当社は8月1日から、クラウドサービス「Nextructureサーバサービス」の提供範囲を拡大しました。昨今、スマートフォンやタブレット端末の浸透にともない、これらの機器と親和性が高い安価なクラウドサービス（メール、ファイルサーバなど）を利用する企業が増加しています。しかし、運用スタイル、品質、継続性の観点から導入を躊躇する企業も少なくありません。

そこで当社は、このような企業でも安心してご利用いただける、ITIL®準拠の高品質なクラウドサービスをリーズナブルに提供します。これにより、中堅企業の基幹システムなどへもクラウドサービスを拡げてまいります。



在庫・入出庫管理を効率化する「無線ハンディターミナル連携オプション for GRANDIT」を発売

当社は7月18日より、完全Web-ERP「GRANDIT®」のオプション機能として「無線ハンディターミナル連携オプション for GRANDIT」を発売しました。本オプションは、製品や現品票に付けられたバーコードをハンディターミナルで読み取り、データをGRANDITにリアルタイム連携させることで、高精度な在庫・入出庫管理を実現します。トータルピッキング、フリーロケーション管理、シリアルナンバー管理など詳細な管理機能も網羅しています。

当社は本オプションを、GRANDITを導入済みの製造・物流業に向け提案します。また将来的には、高度なトレーサビリティが求められる医療機器・精密機器企業への対応も行う方針です。

イベント・セミナー予定

東京地区

AppExchangeカンファレンスin東京

日時　9月26日（木）11:00〜17:00

場所　JPタワー ホール&カンファレンス

「ASTERIA WARP」を出展します。

SOLUTION Japan 2013

日時　10月10日（木）10:00〜18:30
10月11日（金）10:00〜17:00

場所　ベルサール汐留

セキュリティソリューションなどを出展します。

データ倍増時代のデータベース統合セミナー

日時　10月10日（木）14:30〜17:00

場所　東京オフィス　セミナールーム

大阪地区

消費税法改正対応セミナー

日時　10月4日（金）15:00〜17:15

場所　梅田オフィス　セミナールーム

AppExchangeカンファレンスin大阪

日時　10月11日（金）11:00〜17:00

場所　マイドームおおさか

「ASTERIA WARP」を出展します。

詳しくは http://is-c.panasonic.co.jp/event/ をご覧ください！

あいえす☆うちのBOSS（ボス）その9

世界は広い。
世界の荒波に負けないよう
スピーディ&タフネスで
成長していってください。

今号のボス

ESサポート本部
グローバルサポートセンター
センター長
冨江庄一

今回は当社一番の国際派・グローバルサポートセンターに潜入。センター長の冨江庄一について、入社5年目の岡本達矢が紹介してくれました。

「グローバルサポートセンターでは、パナソニックグループの輸出入システムと海外拠点で使う基幹システムを主に扱っています。海外拠点は中国をはじめインド・アジア・欧米など広く、お客さまとは英語でのやり取りがほとんどですね。冨江さんは、やるべき仕事は任せてくださるし、本当に困った時は上司としてフォローしてくださいます。若手社員が多い部署ですが、皆自分らしく仕事に打ち込めていますよ」。海外出張も「若いうちからどんどん行かせてもらっている」と語る彼。「『まずは現場を見ろ』という冨江さんの方針のもと、現地へ伺ってお客さまと直接顔を合わせるようにしています」。当社ではビデオ会議も活用していますが、最初に現場の空気を共有することで、プロジェクトをスムーズに進められているそうです。

「海外の現場を自分の目で見るようになり、グローバル意識もずいぶん高まりました。まずは英語力強化から。冨江さんのように、英語でも日本語と遜色ないくらい話せるようになりたいですね」と、今後の抱負も教えてくれました。

ESサポート本部
グローバルサポートセンター
岡本達矢

編集後記

当社は今年度も、個人投資家向けセミナーを開催します。
8月29日の倉敷を皮切りに、9月には浜松・金沢・福島・東京と、全国5会場を巡回予定です。
昨年度は西日本を中心に実施し、大変ご好評をいただきました。
今回もパナソニックISの現状や今後の事業戦略、株主還元などについてご説明するほか、皆さまからもさまざまなご意見をいただきたいと考えております。
お近くへ伺った際には是非お越しください。

発行元
パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社
法務部　広報・IRグループ
〒530−0013　大阪市北区茶屋町19-19　アプローズタワー16F
TEL 06-6377-0100　FAX 06-6377-0833　http://is-c.panasonic.co.jp/

※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。
※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Copyright(C)2013 Panasonic Information Systems Co., Ltd. All rights reserved.

Panasonic

Move to Delight

IS クローズアップ
2013 09 Vol.32
パナソニック インフォメーションシステムズ

▲ 電気自動車用充電スタンドの利用状況を見える化

Close Up Now

ITが設備に宿す“新たな価値”
M2Mで次世代ビジネスを切り拓く
「設備連携ITソリューション」

TOPICS

ビジネスクリティカルな
クラウドサービスをリーズナブルに提供

在庫・入出庫管理を効率化する
「無線ハンディターミナル連携オプション for GRANDIT」
を発売

あいえす☆うちのBOSS

ESサポート本部
グローバルサポートセンター
センター長 冨江庄一

社長・前川の ちょっと一言

「オンリーワン」

近年ITのコモディティ化が加速度的に進み、IT環境はどんどん安価に、そして容易に整備できるようになりました。お客さまにとっては、企業規模の大小を問わず平等にそれらの恩恵を享受できる時代。逆にIT企業にとっては、差別化が難しく非常に厳しい時代の到来と言えます。

しかし、このような環境においても、まずは「当社ありき」でご相談・ご検討いただけるお客さまがいらっしゃいます。当社のサービスに他社サービスを並べて比較する以上のものを感じていただいているお客さまだと心から感謝しています。

そもそも競争の理とは別次元。多くのお客さまに当社のサービスが「オンリーワン」だと感じていただけるためにも、当社は常に新しい技術に挑み、ノウハウを培いながら「お客さまにとっての最適解をご提案する」という価値をお届けし続けなければなりません。

お客さまにとってのオンリーワンの存在でありたいと思い続けること、そして、お客さまにとっても当社のメンバーにとってもDelightな関係を一つでも多く育んでいくこと。それが私たちの目標です。

代表取締役社長　前川 一博
Kazuhiro Maegawa

Close Up Now

ITが設備に宿す“新たな価値”
M2Mで次世代ビジネスを切り拓く
「設備連携ITソリューション」

機器にセンサーや通信回路を取り付け、自動収集したデータを業務に活用する──。
M2M（機器間通信）は約10年前から実用化されている技術ですが、
センサー技術の進化やクラウドの広がりに伴い、ここ数年で急激に成長しています。
パナソニックISでも、M2M技術をベースとした「設備連携ITソリューション」を展開中。
広がりを見せる新しい機器活用のカタチをご紹介します!

設備のポテンシャルを最大限に引き出す、設備連携ITソリューション

センサー大国・日本。世界の4分の1のセンサーを日本が利用しているという説もあるほどで、今やあらゆるモノのデータがセンサーによって収集可能となっています。

当社の「設備連携ITソリューション」は、こうして得られたデータをモニタリングすることにより、設備のもつポテンシャルを最大限に引き出すもの。稼動設備を遠隔監視・制御したり、収集したデータを省エネやマーケティングなどに活用することが可能です。

EV用充電スタンドも蓄電池もセンサー活用でもっと便利に・確実に

例えば、今年3月から大型の補助金制度が新設された電気自動車（EV）用充電スタンド。EV利用者にはあると便利ですが、設置オーナーも得するしくみがなければ普及は進みません。

そこでパナソニックISでは、充電量を計測し自動課金するだけでなく、充電スタンドの利用状況を見える化できる運営支援システムをご提供しています。

設置オーナーが小売店などであれば、店舗のポイントカードとの連携もニーズにあわせて対応可能。利用客の来店動向をチェックしたり、利用客へのポイント還元を行うことができるのです。

そのほかには、非常用電源として活用できるリチウムイオン蓄電システム。「もしもの時」も確実に稼動できるように制御装置を遠隔監視し、異常がないかどうかを24時間見守ります。万が一の場合もすぐに電話通知や修理サービスで対応し、安心の災害対策環境を作ります。

M2M（Machine to Machine）とは?

ネットワークにつながれた機器同士が互いに情報を交換し合うことで、人手を介さずに情報収集や管理・制御を実現する技術のこと。

例えば自動販売機の在庫管理、コインランドリーの稼働率管理、重機の盗難防止など、さまざまなシーンでM2M技術が活用されています。M2M市場はここ数年で急激な成長を見せており、2012年度における事業者のM2M関連収益は、前年度比で約10〜20%伸びている※とも言われています。

※出典：「2013年国内M2Mサービス市場ビジネス動向分析」IDC Japan

開発者が語る!

設備連携ITソリューションができるまで

現在さまざまな機器に展開している設備連携ITソリューションですが、始まりは自社データセンターのエネルギー管理でした。ノウハウを蓄積しながら事業へと育ててきた道のりを開発者が語ります。

自社データセンターのエネルギーマネジメント活動から環境監視ソフトウェア「eneview」が誕生

最初のきっかけは、2008年より開始した自社データセンターのエネルギー管理でした。

データセンターの安定運用とエネルギーコスト削減を両立するため、温度・湿度も含めた適切な環境監視が課題となっていたのです。サーバだけでなく空調なども含め莫大なエネルギーを消費するデータセンターですが、むやみに節電すればサーバ停止にもつながりかねません。

そこでパナソニック電工（当時）製の計測機器で収集していたデータを活用し、消費エネルギーをシステム上で見える化することにしたのです。エネルギーモニタや温度センサーのデータをもとに空調や照明の稼働状況を分析し、調整・改善を行いました。その結果、当社では200万円以上のコスト削減に成功。約2年の開発を経て、2010年、環境監視ソフトウェア「eneview」として発売に至りました。発売当初はデータセンター向けの商品でしたが、現在は一般施設にも対応。節電を目的とする一般企業や教育機関などのお客さまにご好評いただいています。

パナソニック製機器に「eneview」のしくみを応用

親会社であるパナソニック株式会社ではLED照明から充電・蓄電設備まで多彩な製品を展開しています。「eneview」の基盤となっているM2M技術をこれらにも適用すれば、より便利でビジネスとしても今までにないものを生み出せると考えました。

タイミングよく声を掛けていただき、2011年より「あきた次世代自動車実証コンソーシアム」による電気自動車（EV）の普及に向けた実証実験に参加。EV用充電スタンドの利用状況を把握できるシステムを構築しました。

苦労したのはデータの吸い上げ方。当時の充電スタンドの用途はあくまで充電のみ、データ収集については想定されていなかったのです。そこで「eneview」のしくみを応用し、充電スタンドにエネルギーモニタを組み合わせてデータを収集することにしました。

今年4月にリチウムイオン蓄電池の遠隔監視・エラー通報機能を開発しましたが、この時は監視サービスの企画段階から議論に参加しました。機器側とシステム側、双方の意見を織り込みながら、非常に効率良く開発を進められたと思います。

センサーはひとつの機器のためだけに動いているのが普通。これをシステムでいくつも束ねれば、活用の幅はぐんと広がります。今後も充電スタンドの満空情報をマップ表示したり、蓄電池の充電効率を管理するなど、新たな活用法を打ち出していくつもりです。

技術開発部門
新事業推進グループ
グループマネージャー
藤田 桂一

◀田沢湖畔を運行するEVの観光タクシー